

社会文化学専攻の概要と特色

本専攻は、現代社会論と社会史の2研究分野から成る。それぞれの研究の深化、発展に努めるとともに、専門関連科目をも含め、それらを有機的に関連させ、新たな研究の地平を切り拓こうとする。

(1) アドミッション・ポリシー

本専攻では次のような人材を求めている。

社会や文化に対する強い探究心を持ち、社会現象を共時的、通時的にとらえる幅広い視野を備え、研究者として自立した問題解決能力を獲得しようとするもの。

(2) カリキュラム・ポリシー

人間社会の諸現象を考察するために、現代社会論と社会史の2研究分野を設ける。

現代社会論分野では、とくに地域社会・社会行動・人間形成・家族の諸領域について社会学的方法によって分析し、現代社会の構造や機能を明らかにしていく。

社会史分野では日本・アジア・ヨーロッパの3地域をそれぞれ対象とする社会史と、隣接する学問領域である考古学および民俗学によって、先史時代から現代に至る社会とその文化を考察する。

さらに専門関連科目として社会言語学・社会文学・文化人類学・社会倫理学の各特論を開講して、2分野の教育・研究内容がより豊かになるように配慮している。

このようなカリキュラムにより社会と文化に対してトータルなアプローチを可能にする。

(注) 右頁のカリキュラム一覧表の研究分野名および授業科目は、2016年度より新たに施行されるものである。

(3) ディプロマ・ポリシー

上記の2研究分野それぞれの基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、作成した修士論文が審査に合格して、いずれかの特に深く研究する分野で高度専門職業人としての能力を身につけていることを証明し、さらに最終試験に合格すれば、修士（文学）の学位が授与される。